

吾妻溪谷

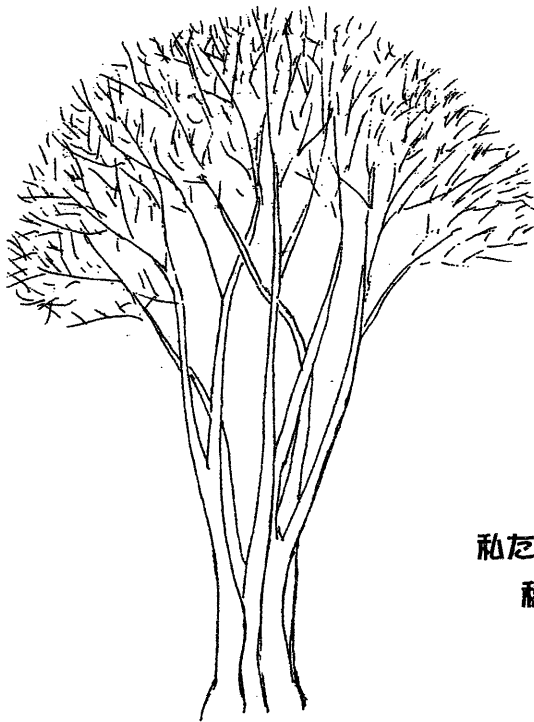
ハッ場ダム

やんぼ

2004.1. NO. 6

選択のために いま立ち止まるとき

利根川流域脱ダム宣言



冬から春に

自然は自然にほぐれだす

私たちの心も大自然の営みのように

穏やかに平らかにしなやかに

動き出したい

私たちと私たちの次の世代が

生きてゆける

根っこを選択するために

ハッ場ダムを考える会

首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

# 吾妻渓谷にとどけ!! 群馬脱ダムの



## 「脱ダム」年表

94年 「アメリカにおけるダム開発の時代は終わった」  
—米開墾局総裁ダニエル・ビアード氏による脱ダム宣言

00年 国内のダム計画、48件中止。群馬県の川古ダム、平川ダム、千葉県の上原ダムなどを含む。

01年 田中康夫長野県知事による「脱ダム宣言」。

02年 群馬県の栗原川ダム中止。熊本県、13年をめどに県営荒瀬ダムを撤去すると表明。完全撤去は国内初。

03年 7月、栃木県の県営東大芦川ダム中止を知事表明。

12月3日、小寺群馬県知事、県営倉淵ダム凍結表明。

12月16日、国土交通省、水資源機構、群馬県片品村の戸倉ダム中止を発表。着工後の国のダム事業が中止になるのは国内で初めて。既に280億円を投じていた。

## 人と自然見直し英断を

拜啓、小寺弘之知事様。  
私が群馬県に初めて転勤してきたとき、取材先の人が教えてくれました。「上州人はネ、義理と人情と自民党」

あれから2年9カ月。選挙や公共事業を取材して、なるほど実感いたしました。

県営倉淵ダム（倉淵村）はその最たるものでした。

折しも、隣の長野や栃木で県営ダム建設が中止となり、「脱ダム」のうねりが押し寄せてきた時、ある偉いお役人さんはこう豪語していましたっけ。

「脱ダムなんてたわごと言うやつは群馬県民じゃないぞ。この群馬で、ダムが止まるわけがないがネ！」

国営ダムに比べれば、倉淵ダムは小なりとはいえ、それでも総額400億円。私たちの財布から出て行くお金です。

大規模公共工事の歯車が回り出せば、止められない。悲しいかな、止める政治もないし、止める仕組みもなかった。

しかし、小寺知事。あなたは倉淵ダム計画を見事に凍結しました。12月3日の県議会で、知事は「私の判断は2000万県民の民意の最大公約数」。

正直申し上げて、「政治」がこれほど美しく心に響いたことはありません。

■ 水害防止、高崎市の利水の両面で県が描く倉淵ダムの必要性は、私たち税金を支払っている者を、「なるほど」と納得させる代物ではなかった。

■ 絶滅が心配されるイヌワシやクマタカは、ダム予定地の上空を舞っています。身銭を切って調査した市民グループから、逆に倉淵ダムの「必要性」を突き付けられました。

■ 本体内事はストップしたままですし、知事の胸のうちは早い時期から「凍結やむなし」ではなかったのでしょうか。

■ 私の感覚では、春の県議選は「天下分け目の関ヶ原」。倉淵ダム推進の方々が、巻き返す決

戦の場だと思っただけです。  
しかし、選挙戦を通じて「倉淵ダム推進」の訴えを聴くことは、ついになかった。当時、すでに「勝負あった」からだとなにして分かります。

■ 知事の凍結表明の直後、利根川下流域の都県が次々と戸倉ダム（片品村）建設に「ノー」を突き付け、国は中止に追い込まれました。

■ 何が何でも巨大なハコモノをつくれたい、という時代は終わりました。今後、地方には未曾有の財政難が押し寄せるところです。

■ 建設費が倍増し約4600億円にもなる国の八ッ場ダム（長野原町）。県の負担も倍増するらしいですね。

■ 八ッ場ダムに反対する鬼石町の関口茂樹町長は「ダム問題は人間の生き方の問題です」と

言っています。

いま一度、人と自然のあり方を見直して頂けませんか。200万県民と「喜怒哀楽」をともにしたいと願うあなたであれば。  
(奈賀 悟)

2003  
喜怒哀楽  
ワイド

## ダム中止

⑥

拜啓、小寺弘之知事殿

小寺知事になりて  
私を民意を代表  
してみよ。S.N

2003.12.22  
朝日新聞群馬版

# ダム事業、水余りで見直し

全国に広がる動向

財政負担、自治体に重く

建設費膨張、意欲なく

工業用水活用  
国の許可待ち

近畿では「水利権転用」

ダム事業見直しが広がっている。事業費の一部を負担して取水する権利（水利権）を得る予定だった埼玉県や東京都が撤退した戸倉ダムが中止になり、大阪府や阪神水道企業団なども撤退を表明した。人口減が見込まれる中、完成済みのダムで水道水はほぼ充足。地方自治体が新規ダムに財政負担を要する必要性は薄れている。これまで環境面から議論されてきたダムは今後、経済合理性がクローズアップされそうだ。

経済産業省も工業用水の転用を後押しする。「水資源を有効活用して、工業用水道事業をスリムにしてほしい。経営悪化で水道料金を上げ、地域産業にマイナスになるのが一番怖い」と考えた。ただ、水利権の転用権限を持つ国交省の対応はまだ見えない。転用を認めないことで自治体のダム事業撤退を抑えてきた面もあり、大規模な転用を認めれば国交省の政策の大転換になる。

国土交通省は10日、利根川、淀川など全国7水系に対して政府が策定中の新たな水資源開発基本計画（フルプラン、目標年度は主として2015年度）では、国直轄や独立行政法人・水資源機構による新たな利水ダム建設計画を盛り込まない方針を固めた。少子高齢化の進展や景気の低迷を背景に水需要が伸び悩んでいることや、国や地方自治体の財政難に配慮したためだ。同省は、関係省庁や都道府県と調整を進めたうえで、04年度中に同計画を閣議決定する。

新たな基本計画では、設中止となるなど、既存計画を見直す動きも強まりそうだ。同省は、新たな基本計画では、ダムなどの施設に比重を置いてきた。これまでの計画を全面的に改めて、渇水期の安定供給をはじめ、用途転用などでの既存ダムの有効活用に重点を移す考えだ。【中村篤志】

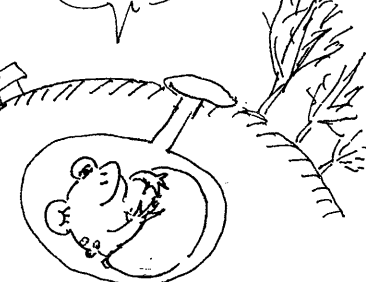
## 戸倉ダム中止

### 地方の変化が国動かす 「治水」もはや免罪符にならず

度までの水需見直しを要する。最大の利水者である埼玉県は、少子高齢化に伴って人口の伸びが止まっている。治水の重要性を「副産物」で見てきた。この結果、九月の事業計画の修正を受け、国交省も水資源政策の全面的な見直しに着手した。利根川や荒川など主要7水系のダム事業の根拠となる水資源開発基本計画（フルプラン）について、本計画の作成を断念し、新たなダム建設を含めた広域的、長期的な水資源開発事業から撤退する。現在は、02年度を目標として、一方で国交省は十一月、八

建設費の増大、自治体の財政難、水利権の活用など、地方自治体の財政難に配慮したためだ。同省は、関係省庁や都道府県と調整を進めたうえで、04年度中に同計画を閣議決定する。

目覚める頃には、こんな時代になってるんだろ...  
ZZZ...



MAINICHI 新毎日 2004. 1. 11

### 7水系新規ダム見送り

基本計画 需要減・財政難で

国交省方針

木曾川水系、淀川水系、筑後川水系、利根川・荒川水系、豊川水系、吉野川水系

## ハッ場事務局日記

## 疾風怒濤の12月

昨年11月20日、国土交通省がハッ場ダムの事業費変更案を発表して以来、突然「やんやんや」と注目を浴び始めたハッ場ダム計画。マスコミへの露出度もグンとアップしましたが、目に見えないところでも各地で様々な動きがありました。

(文中の「首都圏の会」は「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」、「ヤンバの会」は「ハッ場ダムを考える会」の略称です。)

## まずは国会議員に訴え

12月1日 「首都圏の会」、「ヤンバの会」、国会議員会館へ。民主党国会議員、佐藤謙一郎氏と話し合う(中村敦夫氏の秘書も同席)。

## 都議会に向け一東京と現地で、同時進行

5日 国土交通省は事業費変更案を関係各都県の12月議会での採決を求めている。(埼玉、千葉、群馬、茨木は、2、3月議会ですと決定)。

都議会は12月議会で採決との情報が入り、「首都圏の会」メンバーら、都庁にて記者会見。都知事、都議会各派に要請書を提出。各地のメンバーが20名参加。

一方、ハッ場現地では民主党都議が現地入り。国交省の案内で工事現場を見学後、「ヤンバの会」に意見を求める。

## 前橋で緊急集会

7日 「首都圏の会」、「ヤンバ」の会共催の集会が、たった一週間の準備で開かれる。鬼石町の関口町長、都議の大河原雅子氏らの熱いスピーチ、水源連の遠藤氏の科学的なデータを駆使した解説に、聴衆は熱心に聞き入る。利根川の上流、下流の住民が、初めて心をつなげて集会アピールを採択。

「生活者ネット」都議らが泊り

がけで現地視察。国交省の現場案内の後、「ヤンバの会」と意見交換。

## 要請書を手には群馬県庁へ

9日 「ヤンバの会」「首都圏の会」連名で群馬県知事、県議会に要請書を提出。

## 千葉でも要望書が

10日 千葉県議会の共産党、社民党・県民連合、市民ネット・無所属市民の会、水と緑の会の四会派が、事業から撤退するよう堂本知事に要望書を提出。知事は「水をいただく立場の下流県から反対は言いにくい」としながらも、水需要を再検討する必要がある」と。

## 都議会、都市環境委員会スタート

11日 都議会都市環境委員会で質疑。民主党— 水の自給率を上げる施策を掲げる「東京都水循環マスタープラン」との整合性を追及し、「慎重審議」を要望。

共産党— 水需要予測が過大、水道料金値上げにつながる。ダムを造らない政策を考えるなど、時間をかけて審議する問題だ。

市民ネット— 利水、治水両面で目的を失ったダム計画。地下水利用自治体の意見を聞き、負担金増額について、都民へ説明責任を果たす必要がある。

12日 同委員会で採決。野党は「継続審議」を求めたが、自民、公明両党の賛成で、7:5の僅差で採決。一方、足銀問題で揺れる栃木県議会では、八ッ場問題は注目されず、この日あっさりと本会議で採決された。

ニュースステーション

17日 都議会本会議最終日。民主党は採決にあたり、全員退場。

Nステ放映。久米宏キャスターは「なんで石原都知事がOKしたのか理解できません」とコメント。

埼玉県知事、「不愉快千万」と

18日 埼玉県で懇話会を開催。識者らによって八ッ場ダム計画増額の根拠が問われた。懇話会メンバーからは、ダム計画の必要性を問題視する意見は出ず。

19日 「埼玉の会」、「首都圏の会」などで埼玉県知事に要望書を提出し、20分知事と面談。上田知事は「国交省は事業費を見直す機会がありながら途中経過を報告せず、いきなり倍増では簡単に受け入れられない。戸倉ダムから撤退の際、八ッ場ダムの水があれば足りるという計算だったので、計画そのものは原則的に賛成との立場だが、データや状況の変化があれば再検討の余地もある」と語る。

現地レクチャーツアー

25~27日 2グループの現地視察&レクチャーが行われる。マスコミ関係者、埼玉県会議員らが泊りがけで現地入り。

2003.

12.27  
朝日新聞  
群馬版.

国交省の担当者の説明を聞く参加者の  
長野原町の「代替地」工事現場で



八ッ場ダム  
建設予定地

地盤・水問題学ぶ

「考える会」見学ツアー  
埼玉県議も参加

25、26の両日、長野原町の八ッ場ダム建設予定地を見学するツアーがあった。主催した市民団体「八ッ場ダムを考える」から、ダム事業の問題点

25日は、ダム本体の建設予定地などをバスで巡り、国土交通省の担当者の説明を聞いた。地元住民がダム完成時に移住する「代替地」の工事現場では、参加者から「山を切り開いて造った土地が崩れる心配はないのか」などの質問が出た。

26日の勉強会では、地元の地質を研究する中村庄八さんが、建設予定地の地盤の弱さについて解説した。中村さんは「浅間山が噴火し、崩れてできた土砂が堆積している。ダムができて水が入れば、弱い地盤がさらに崩れやすくなる。代替地

でも地滑りが起きるかもしれない」と指摘した。また、水源開発問題全国連絡会代表の嶋津暉之さんは「水利用の増加はすでに頭打ちで、新たなダム建設は必要ない」と訴えた。

26日には、大口利水者である埼玉県の県議ら5人が参加。民主党の当麻よし子県議は「地元の人にはほとんど利益を受けず、50年間翻弄されてきた。埼玉の水利権は八ッ場ダムとは別に確保できるように考えたい」と話した。



# ハッ場ダムの問題点

嶋津暉之 (水源開発問題全国連絡会共同代表)

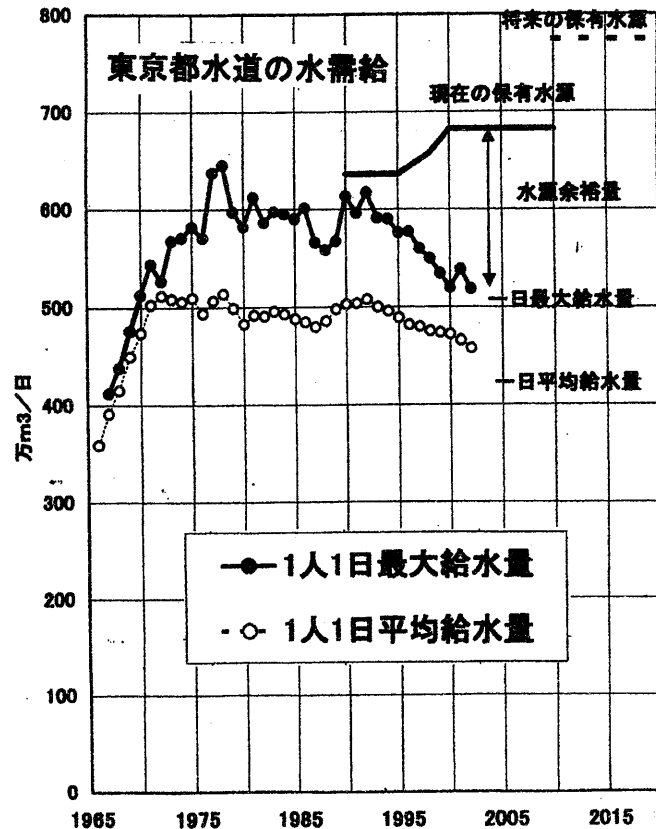
## 水あまりの首都圏

首都圏の水をめぐる状況は、この十年で一変した。

東京都では(下図)一人当たりの給水量が減少の一途を辿り、人口は依然増え続けているにもかかわらず、この十年間で水道給水量が一日100万 $m^3$ も減少している。

現在、都は一日約680万 $m^3$ の水源を確保している。最近の一日最大配水量は520万 $m^3$ だから、150万 $m^3$ /日以上余剰水源を抱えていることになる。

埼玉、千葉においても水あまりの状況になっている。首都圏では2015年頃には人口がピークに達し、その後は減少傾向になる事を考慮すれば、新たな水源開発の必要性は見出せない。



## 治水にハッ場ダムは必要か

次にダム建設のもう一つの目的、治水について検討してみることにしよう。

利根川の治水を語る時、必ず引き合いに出されるのが1947年のカスリン台風である。治水計画は、この時の洪水をベースに策定されている(右上図)。

利根川中流に八斗島(やったじま)という地名がある。この八斗島を基準点として、カスリン台風並の洪水に備えるというのがダムを造る理由である。しかし、カスリン台風は戦争直後に起こったものであり、食糧難で山麓を開墾し、燃料確保のために森林を乱伐した当時の時代状況が原因で大洪水が出たことは今では明らかになっている。それでも八斗島地点での実績流量は1万7000 $m^3$ /秒に過ぎない。

国土交通省は、流域の開発が進んだなどの理由で、現在カスリン台風並の雨が降れば、2万2000 $m^3$ /秒の最大洪水流量になると計算している。しかし実際には、戦後、森林が

生長してきた結果、図にも示されている通り、最大洪水流量が1万 $m^3$ /秒を超えたことがない。国は200年に一度の洪水に備えた計画としているが、2万2000 $m^3$ /秒という数字そのものが信憑性のない数字であると言わざるをえない。

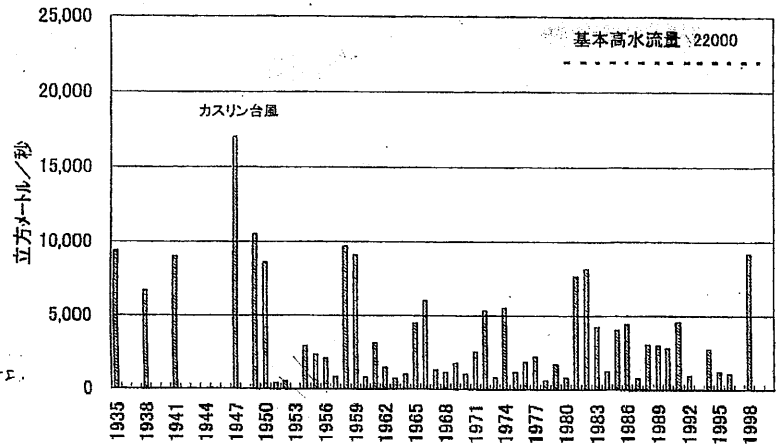


図3 利根川・八斗島地点の年最大流量



## ハッ場ダムの完成時期は？

ハッ場ダムの完成予定年度は2010年度となっているが、これから代替地の本格的な造成、個別の補償交渉、付け替え鉄道の建設、転流工、本体工事などを進めるわけで、順調にいったって15年以上かかるとみるのが妥当であろう。

それは予算の面からも裏付けられる。事業費が2,110億円から4,600億円になっても、国家財政が厳しい状況にあることから、毎年の事業費は従来どおりの予算が精一杯というところである。今後の残事業費は約2,900億円であるから、毎年の事業費を今まで通りの200億円前後とすれば、あと15年以上かかることになる。実際には他のダムと同様、事業費の再度の増額があるだろうから、完成時期は順調にいったって2020年頃であると考えられる。

## オールクリアの時代

現在のダムをめぐる状況は、次の4つの特徴で言い表せるのではないだろうか？

- ① 水あまりの時代
- ② ダム不要の治水対策の時代
- ③ 地方が国にものを言う時代
- ④ オールクリアの時代

つい最近までは、一度始まった水源開発が止まる事は殆どなかった。

長良川河口堰問題で、三重県が国に水利権の返還を申し入れたにもかかわらず相手にされなかったなどは、その好例である。ところが最近では、地方が申し入れをした場合、国がその要求を無視できない状況が多くなってきた。或る政治的な変化が、それまで不可能だった事を突然実現させてしまう、つまり何でもありの時代になったと言えるであろう。

ハッ場ダムに関しては、水没予定地の人々が50年以上もダムに翻弄されてきた歴史を無視するわけにはいかない。今ダムが突然中止になれば、代替地などへの移転を前提とした生活設計が白紙に戻され、地元の人々を絶望の淵に追い込む事になりかねない。

政策転換の時代にあつて、今後はダム中止後も、ダム予定地の生活再建の推進を可能にする法制度の枠組みを考え、その整備を図る事を国に求めていくことが必要である。

# これは大変！ハッ場の地質

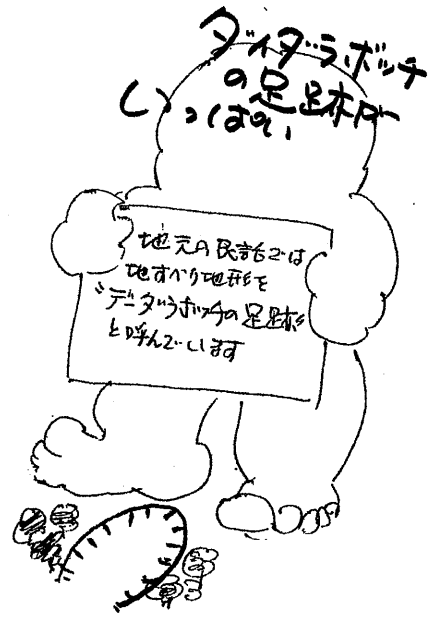
吾妻溪谷から白砂川との合流点に至る約8キロは、地殻変動の激しい地帯です。

— なんと、ここがそのままダムの予定地なのです。

吾妻溪谷は約2万年前にできたばかりの赤ちゃんのように新しく脆弱な地質からなっています。

浅間山噴火によって発生した「応桑岩屑なだれ」(岩屑なだれとは、火山体の一部がこわれて岩塊群となり、なだれのように高速で崩れ落ちる現象)は、溪谷一帯を厚く覆っています。そのため吾妻溪谷は、重力的に大変不安定な地形となっています。

この地質は岩塊と粗い火山灰からなり、多量の水を含むと粘土状になり、地すべりを起こします。



No.87・夏・群馬評論(2001) 地学団体研究会 中村庄八

図1 ハッ場ダム湖水域の地形地質 [久保他(1993)を基に作成]

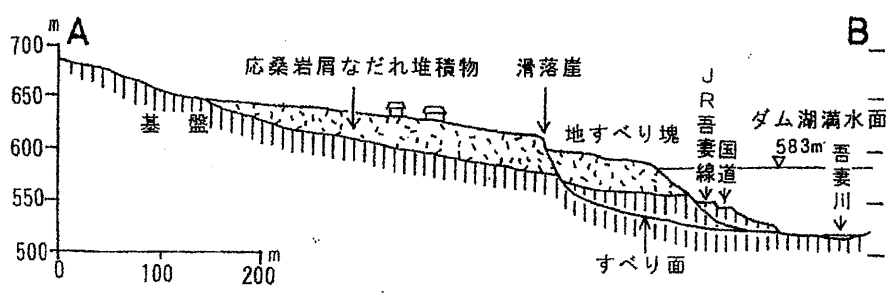
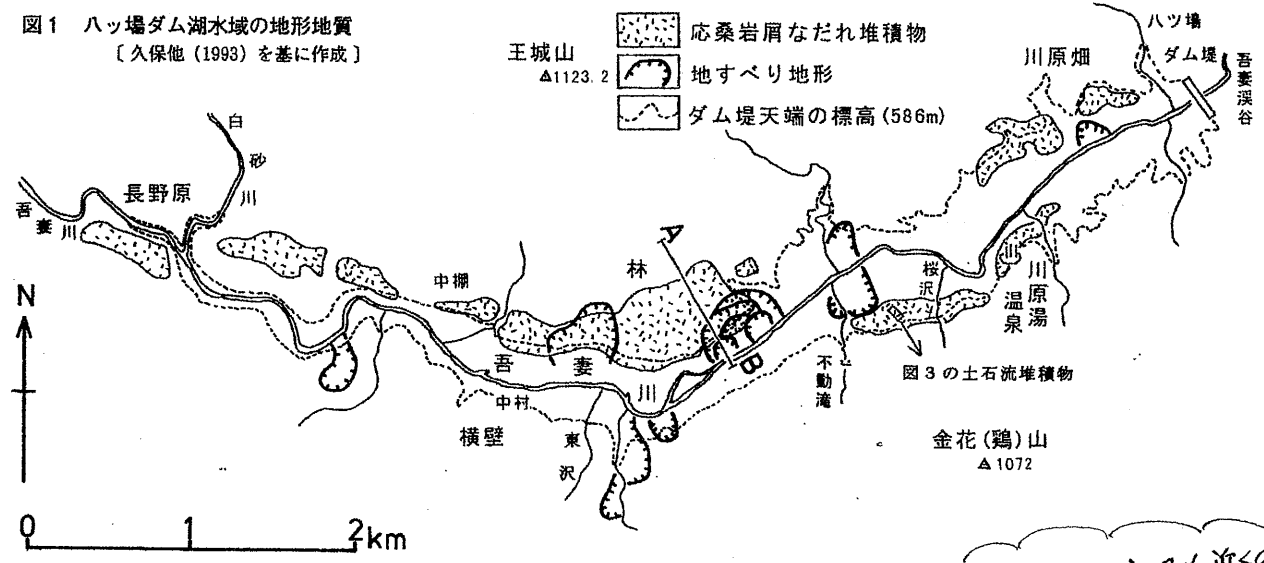


図2 林集落の表層地質断面 (A-Bの断面位置は図1に記入)

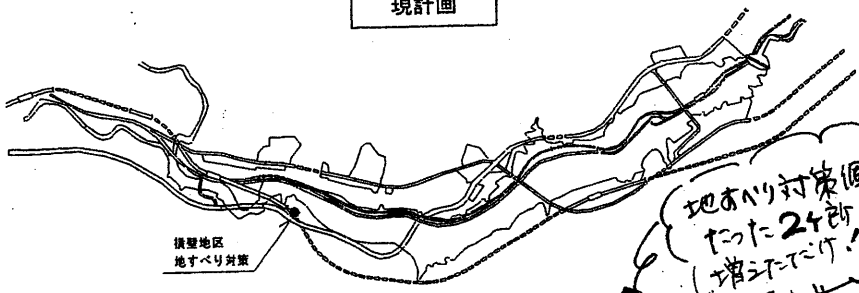
水をはったら、ダム近くの住宅地に地震が起きたという。奈良の大滝ダムよりも、地質的にはハッ場の方が、もっともろい。ダムに向かい、もう一つダムを造るなら、もう一つダムを造るなら、工事費がかわるでしょうね。中村庄八



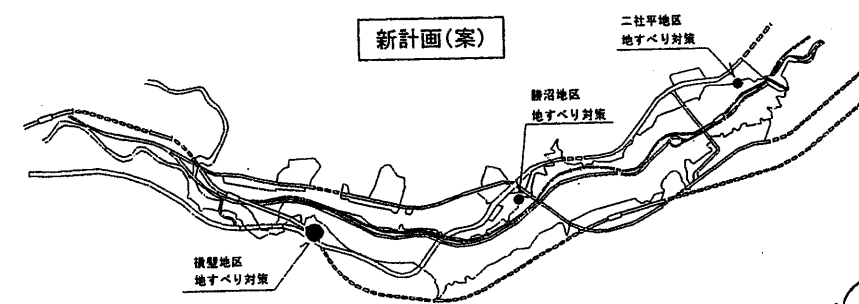
図表は  
関係の都県からの質問に対する  
**国交省の回答より**  
2003.秋版

地滑り箇所位置図

現計画



新計画(案)



地すべり対策箇所  
新たに2ヶ所  
増設はあり!?

この新計画で  
ハコ場を  
造りにさ...  
どうなっちゃうの...  
国交省は  
本気なのかな?  
葉っぱをのけても  
オレたちとち  
ニまどは...

地すべり工事  
安全性には目とじぶり

え!? え!?

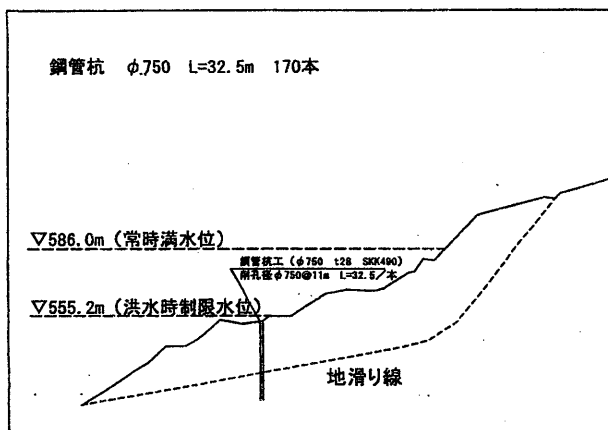
工種	現事業費		新事業費(案)		増減	
	数量	金額 (百万円)	数量	金額 (百万円)	数量 (千円)	金額 (百万円)
横壁地区地滑り対策	1式	234	1式	395	1式	161
勝沼地区地滑り対策	0式	0	1式	(3,554) 100	1式	(3,554) 100
二社平地区地滑り対策	0式	0	1式	(968) 87	1式	(968) 87
計		234		(4,917) 582		(4,683) 348

注) ( ) 書きはコスト削減前額である。

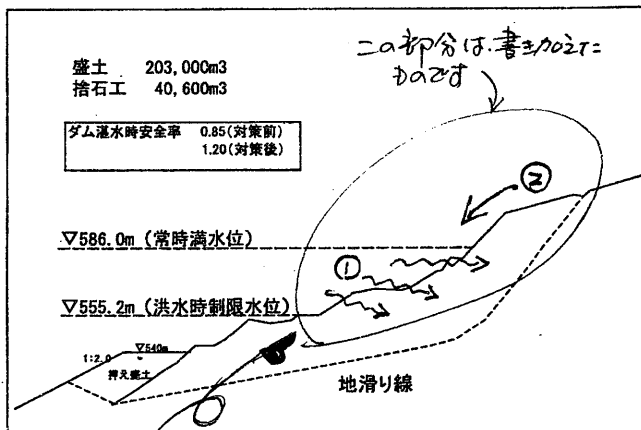
価格的には  
充分満足した  
だけだから... (注)

勝沼地区地滑り対策  
対策断面図

コスト削減前



コスト削減後



湖水が満ちると、  
地すべりを起こしやすいため、水かき込み、  
② 土の上の湖上の地面を削り出す危険性があるため、地質の専門家から指摘されています。

2003.12.3

群馬

# 倉淵ダム凍結!

「はい  
そんなんさ!!」



高崎の水を  
考える会代表・  
高階三子 たのほし

昨年12月3日、小寺群馬県知事は県営倉淵ダムの凍結を表明しました。一度始まったら止まらないはずの公共事業、しかも総事業費400億円のうち、すでに160億円が投じられたダム建設が事実上止まったのです。

## 知らないことの怖さ

下久保ダムを町内に抱える鬼石町町長、関口茂樹さんが、大きな目をさらに大きく見開き、柔和な顔を鬼のようにして力説されているのを多くの方はご存知だと思います。

「知らないということは、本当に怖いことですよ! ダムを造ればこんなにも村が発展すると言われました。でも今になってみると、みなウソの情報だったんです。造ってからでは何を言っても遅い。その前にしっかり検討することです」

私は一昨年、「高崎の水を考える会」に参加して、倉淵ダム計画の全容を知り、改めて知らないことの恐ろしさに気づきました。

ダムの契約には、お金の負担のことが書いてあるだけです。400億円もの巨費を投じるからには、ダムによって得るもの、失うものがキチンと検証され、その情報が公開されて皆の納得が得られなければならない筈です。

この2年間、科学的な事実をどのように見直しの力に変えるかに腐心してきました。まずはダムの目的とされる治水・利水について、専門家に疑問点をまとめてもらいました。その情報を首長、議員、土木業界などあらゆる方面の方達にうるさく思われるほど提供し、本当にこの事業はプラスなのか公開質問を重ねました。高崎市、榛名町、倉淵村など流域の一般の方々にも学習会、署名活動を行い、人々の思いを引き出してきました。

## 聞く耳をもたないからとあきらめず

高崎市では、市内の公民館で学習会を開催。統一地方選の前にやらなくてはと、寒い最中26の公民館を会場にして…正直言って寝る間もなく、傍からは無謀だと言われました。それでも私自身、新しい事を知る喜びをエネルギーとし、時には暖かい着物でおしゃれも楽しみつつ連日の学習会をこなしました。後にこれが功を奏した事がわかりました。

当初は殆どの議員が、行政側の主張を鵜呑みにしていました。

「議会ではもう10年も前に議決してしまった。今更そんな事言われても…第一、地盤沈下や地下水の問題がある。ダムを造って表流水を得るしかないんだ」

ところが市長選が終わった頃、議員の方から「話を聞きたい」ともちかけて来るようになり、私達の説明に、「驚いた。全く知らなかった」という反応が返ってきたのです。その後、私達が得た情報は市議会から県議会へ、党派を超えて伝えられていた事を知りました。

## つながり合うことが力に

現在、私たちの社会が直面している環境問題は、従来の手法ではなかなか解決の道筋が見えてこないのではないのでしょうか? 「いのち」の存続が問われる時、知事も、市長も、議員も、学者も、一般市民も、みな立場の違いを超えて、同じ一人の人間として答えを求められているのだと思います。人と人のネットワークを駆使して情報を共有化していく事—倉淵ダム問題に関わって、新しい市民運動の一つのあり方が見えてきたような気がしています。

## ハッ場のおかしな物語 その2

### 一億円上乗せは、怠慢から

4600億円と二倍にもはね上がったハッ場ダム事業費が値上げされ、正式発表されたのは去る11月20日。その日、現地では予測済みのすでに周知のこととして、極めて冷静であった。

それよりも腹立たしいのは、国道145号線の付け替え道路、ハッ場バイパスは国土交通省側がしぶる住民たちを説得し、四車線道路建設を言い張って強行したはずであったのに、変更となり、地元民の主張どおりの二車線になっていたことである。水没民たちは手放しでは喜ばず「それなら、なにも最初から」と不満の声が出るのも至極当然。

そもそも「四車線なんかいらぬ。ムダであり、車が素通りしてしまつて、活性化しない」と二車線を希望してやまなかつた。「させてくれ」と押し倒すように懇願の果ての決定であつたそうである。それがどうしたことか、今回の縮小となつた。しかも事前に何らの参考意見も求められぬ決定であつたという。

つまり何事もゼネコン業界の仕事づくりであることが浮かび上がる。コンサルタントも設計業者も、そしてどこかの政党ならびに政治家への献金も、また額面の大きな工事ならば、その受け取る額面もおのずと大きくなるのだから……。

いまや道路建設のカラクリが指摘され、かつてない不景気風の前に、初の志断念か。だが、犠牲を強いる住民への生活再建の変更だけはあつてはなるまい。

想えばダム建設の1通の文書が届いた1952年以来51年間、ここでは何一つ自分たちで、明日の方向付けが出来なかつた。闘争挫折後は、日々建設促進にむかつてノロノロ歩かせられ、ダム建設地の宿命という檻の中に囲われてきた。

嘆きの声は住民無視の歴史の底にくすぶり、癒しがたくよどむしかないのか。

さて、初春の現地では、昨年12月15日夕刻発表された代替地分譲価格が等価交換価格を上回つたことにより、揺れている（因みに灰塚ダムでは半額）。

(すずき)



2,3月議会の前に

## シンポジウム、講演会のお知らせ

埼玉、千葉、群馬、栃木の4県では、ハッ場ダム建設の事業費大幅総額案が2,3月議会で決議される予定です。

大変な問題が、その内容も意味もほとんど知られないままに決められていくのは、それこそ大変な問題。

目の前に立ち現れた首都圏のダム問題を、今、考えてみませんか。

### 2月1日(日) 「シンポジウム ハッ場の地質を検証する」

会場： 前橋市 群馬県女性会館

時間： 午後1時～4時

講師： 中村庄八 嶋津暉之 藤原信 関口茂樹

### 2月7日(土) 「今、ハッ場ダムは必要か？」

会場： 国分寺労政事務所

時間： 午後1時半～4時半

講師： 中村敦夫 嶋津暉之 中村庄八

### 2月11日(祝) 「ハッ場ダムは本当に必要か？」

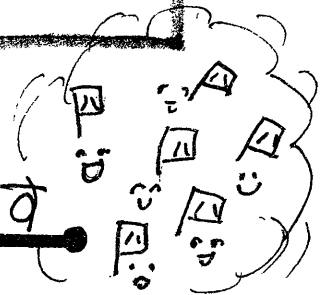
会場： さいたま市文化センター

時間： 午後1時～4時

講師： 中村敦夫 嶋津暉之

首都圏の各地に

市民の拠点があります



\*ハッ場ダムを考える会

\*首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

\*ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 (藤永)

\*ハッ場ダムを考える千葉の会 (北澤)

\*ハッ場ダムを考える小平の会 (田中)

\*ハッ場ダムを考える市民の会おおた (あべ)



【事務局からのお知らせ】

☆署名運動について

今回は、「群馬県知事宛て」と「国土交通大臣宛て」の署名用紙2枚をA3用紙一枚にして同封いたしました。「群馬県知事宛て」署名は、2月議会直前の2/15が締め切りとなります。全国から「ハツ場ダムにNO!」の声を是非お寄せください。

また、「国土交通大臣宛て」の署名運動は、「ハツ場ダム計画」がストップするまで続きますが、ある程度署名が集まりましたら、どうか返送をお願いいたします。

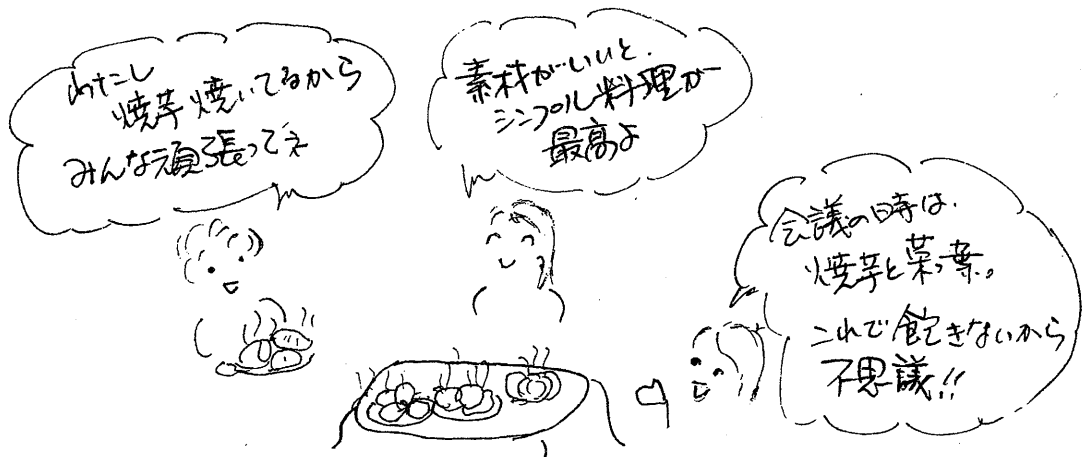
☆新HPスタート!

お待たせしました。やっとこ新しいホームページが立ち上がる事になりました。表紙から順次アップしていきますので、すばらしい(?)ページになるまでにはまだちょっと時間がかかりそうですが、ぜひ「ハツ場ダムを考える会」を検索してみてください。

☆会費納入のお願い

今年度(昨年秋の総会より次年度の総会まで)の会費納入がまだの方は、同封の振込用紙にてお振込みをお願いいたします。すでにお振込み済みの方にも、振込用紙が同封されておりますが、カンパの際にご利用いただくためですので、何卒ご了承ください。

今年もどうぞよろしく



さつまいも、里芋、じゃがいも、お山にかたじけなく  
芋と太芋のこの一年

ハツ場ダムを考える会事務局

## カモシカ

豊田 ことし

前の山も

裏の林も

下の川も

ダムの記事で

カモシカは糖むところを  
追われたのが

我が家の段々畑に

この一週間

カモシカは動かない

今朝は霜の降りた庭に

子どものカモシカが

ゆっくり散歩していた

食べ物が無いのかな

カモシカは

大根の葉をいっぱい食べて

雑木林の中へ

ゆっくり帰っていった

**八ッ場ダムは現在の計画では、平成 22 年に完成の予定です。  
けれども本体工事はまだ始まっていません。  
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。**

### 【会員年中募集中】

年会費（秋の総会から次の総会まで）／個人 2000 円、学生 1000 円、団体 3000 円  
会員には年 4 回会報をお届けします。

《カンパしてもいいなという方は・・・》どなたでもぜひ下記にお願いします。  
郵便振替講座番号 00550-2-32681 （加入者名・八ッ場ダムを考える会）

発行： 八ッ場ダムを考える会